

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	医療用麻薬適正使用推進事業			担当部局庁	医薬・生活衛生局			作成責任者		
事業開始年度	平成19年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	監視指導・麻薬対策課			課長 伊澤知法		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	がん対策基本法第9条第1項			関係する計画、通知等	がん対策推進基本計画					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医療用麻薬の適正管理と適正使用の推進を図る。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	・医療関係者等向けに、医療用麻薬の適正使用推進のための講習会を開催。 ・都道府県の業務担当職員を対象に、医療用麻薬等指導監督業務研修を実施し、全国的に統一した管理・指導監督を実施。									
実施方法	直接実施、委託・請負									
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	3	3	3	3	3	0		
	執行額	2	2	1						
	執行率(%)	67%	67%	33%						
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	67%	67%	33%						
	平成29・30年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
医薬品審査等業務庁費		2								
委員等旅費		0.5								
職員旅費		0.5								
諸謝金		0								
計		3	0							
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	-									
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と26~28年度の達成状況・実績								
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	本事業は医療用麻薬について、適正な使用・管理・指導が行われることを目的としており、成果について直接的な指標は示すことは困難である。			医療用麻薬については年々消費量が増加していることから、全国的に統一した適正な使用・管理・指導を行うにより、がん疼痛患者等の生活の質(QOL)の向上を図ることを目標とし、講習会の開催等を実施した。 ※H26~H28年度の達成状況等については、活動指標及び活動実績を御参照ください。					
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度	
	間接的な指標として医療用麻薬消費量(国際麻薬統制委員会麻薬消費量単位S-DDD)を成果実績評価に活用する。 S-DDD:100万人1日あたりの医療用麻薬消費量(過去3年の平均)	S-DDD	実績	S-DDD	1,166	1,171	1,181	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	活動実績	当初心見込み							
①講習会実施箇所数	活動実績	箇所	12	12	12	-	-		
	当初心見込み	箇所	12	12	12	12	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	活動実績	当初心見込み							
②講習参加者数	活動実績	人	2,124	2,481	2,583	-	-		
	当初心見込み	人	2,000	2,000	2,000	2,000	-		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	活動実績	当初心見込み							
③研修参加者数	活動実績	人	32	37	47	-	-		
	当初心見込み	人	47	47	47	47	-		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	①X:「当該年度の講習会実施に係る執行額」/ Y:「当該年度の講習会実施箇所数」		単位当たりコスト 円	193,293	198,802	100,684	229,250		
			計算式	X/Y	2,319,511/12	2,385,620/12	1,208,208/12	2,751,000/12	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	②X:「当該年度の講習会実施に係る執行額」/ Y:「当該年度の講習会参加者数」		単位当たりコスト 円	1,092	962	468	1,376		
			計算式	X/Y	2,319,511/2,124	2,385,620/2,481	1,208,208/2,583	2,751,000/2,000	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	③X:「当該年度の研修に係る執行額」/ Y:「当該年度の研修参加者数」		単位当たりコスト 円	869	452	757	757		
			計算式	X/Y	27,820/32	16,734/37	35,600/47	35,600/47	
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	麻薬・覚醒剤等の乱用を防止すること(Ⅱ-3)							
		施策	規制されている乱用薬物について、不正流通の遮断及び乱用防止を推進すること(Ⅱ-3-1)						
	測定指標	定量的指標	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度	
		実績値	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	医療関係者等向けに、医療用麻薬の適正使用推進のため講習会を開催し、医療用麻薬について、全国的に統一した適正な使用・管理に資することにより、麻薬・覚醒剤等の乱用防止に寄与するものである。(平成28年度の講習会実施箇所数 12箇所)								
	改革項目	分野:	-	-					
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)	単位	計画開始時 -年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
目標値			-	-	-	-	-	-	
達成度		%	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)	単位	計画開始時 -年度	28年度	29年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-		
達成度	%	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明				
国費投入の必要	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	がん患者の生活の質の向上を図るため、医療用麻薬の適正使用を普及させることは、国民のニーズが高い。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	医療関係者に対し、医療用麻薬適正使用のための管理・指導等を行うことは国が実施すべき事業である。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	医療用麻薬の適正使用は、がん患者等の生活の質を向上させるものであり、優先度の高い事業である。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	調達はすべて少額随意契約であるが、複数の選択肢からより低コストな会場を選定する等、適切な執行に努めている。				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。</td> <td align="center">無</td> </tr> <tr> <td>競争性のない随意契約となったものはないか。</td> <td align="center">無</td> </tr> </table>	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		無	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	低コストで執行が図られており、次年度において同水準を見込んでいる。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	事業目的に即した適正な執行を行っている。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	講習会の開催にあたって、より効率的な執行を行えるよう会場選定を行う等した結果であり、妥当である。					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	講習会等の実施について広報を通した効率的な実施を検討している。					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	本事業は医療用麻薬について、適正な使用・管理・指導が行われることを目的としており、成果について直接的な指標は示すことは困難であるが、間接指標としてのS-DDDは一定の数値で推移していることから、事業の目標達成に向けて一定の効果があると認めれる。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	医療用麻薬等指導監督業務研修では庁舎会議室を会場として使用する等、コスト削減を図った。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	概ね見込み通りである。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-					
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> <tr> <td align="center">-</td> <td align="center">-</td> <td></td> </tr> </table>	所管府省名	事業番号	事業名	-	-	
所管府省名	事業番号	事業名					
-	-						
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・医療用麻薬について、全国的に統一して適正な管理・使用・指導が行われるために必要な事業である。 ・がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会については、今後も必要な見直しを行い、適正な執行に努める。 ・医療用麻薬等指導監督業務研修については、引き続き庁舎会議室を会場として使用する等の低コストで実施できた。 					
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会については参加者数が見込を上回ったが、医師の参加数が少なかったため、講習会の広報の方法について、各都道府県や関係学会、団体の協力を得て広報を行うなど、検討、工夫する。 ・医療用麻薬等指導監督業務研修については、引き続き庁舎会議室を会場として使用し、必要経費の抑制を図る。 					
外部有識者の所見							
行政事業レビュー推進チームの所見							
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
備考							

